
私の心臓を天まで捧げて

花憐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の心臓を天まで捧げて

【Nコード】

N1065D

【作者名】

花憐

【あらすじ】

少し外れた道を歩んできた高校1年生の女の子と、それを護りぬこうとする高校2年生の男の子のおはなし。

第1話：私

目を開いたら、耳鳴りがした。

頭を揺さぶるような耳鳴りは、私をこの教室とはまったく無関係な別世界に招待しているようで、心地がいい。

高校に入学して3ヶ月。

皆は真面目に授業を聞いている。自称進学校に入学した私は、つまらない日々を送っていた。つまらない、つまらない。正直、今気付けばなんで私は高校に進学したのだろうかと思った。入学してたった3ヶ月でそこまで考えてしまう生徒は多分私を含めあと2人くらいいるだろうか。そんな瀬戸際の私は、50分もある長い長い授業を半目で聞いていた。

思えば中学は楽しかった。

皆に好かれたほうが、色々楽しだと、私は色んな子と友達になった。おかげさまで、周りからの印象が「明るい」、「面白い」などクラスのムードメーカー的評論を頂いた。しかし、そんな生活は長く続かなく、中学2年の時に不登校になった。2年の時の担任が無性に食わないっていう理由もあるんだけど、毎日が保健室登校だった。でも、その保健室登校生活の中、たくさんの学校の裏側の場面を見て、酷く心を打たれた。ああ、以外にも教員は色々頑張っているんだな、と。保健の先生が例を見ないほどいい先生で、私の通っていた中学も、とてもいい先生がたくさんいた。1年生の時の担任の先生は、学校に来れない私のために1000以上の可愛いパズルを買ってきてくれて、「パズルをやり学校においで」と言ってくれた。みんなが私を一生懸命学校に来させようとしてくれた。その行動に何処か感動し、私は恩返しをしたいと決意し、3年はほとんど学校に行った。そして、無事、見事公立高校進学、と言う訳だ。

じゃあ、私は中学の先生に恩返しするために進学したのか。

なんて小さく気付きながら、頬杖をついて、カツカツと繊細な音を立てて授業をする教員の背中を見ていた。なんだろうな、この高校の教員は中学の頃の教員と比べてしまえば、腐ってみる。義務教育の終わりはこんなもんなのか？なんて思ったが、やはり、良い人間に恵まれていた、と言ったほうがいいかな。そうしておこうか。

授業が終わるチャイムが鳴ったのは、私が13回目のあくびをした後だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1065d/>

私の心臓を天まで捧げて

2010年11月20日02時47分発行